

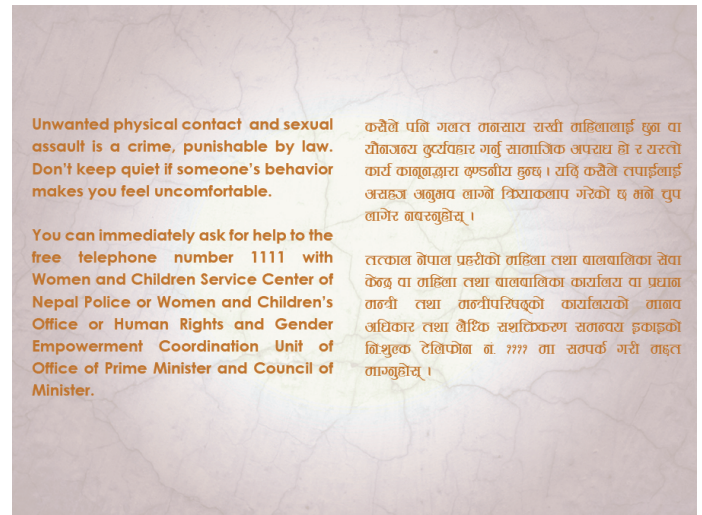
ネパール地震の被災者支援のための日本政府からの支援

2015年4月25日にネパール中西部で発生したマグニチュード7.8の地震による被災者には、女性と少女150万人が含まれています。また、そのうちの126,000人が妊娠しており、地震後、毎月1万人の女性が出産する予定とされています。

日本政府はこのような脆弱な女性たちへの支援の重要性を鑑み、5月12日に被災地の女性と少女たちに対して国連人口基金が行う救命活動に対し、100万米ドルの緊急無償資金協力の実施を決めました。その拠出金を受けて、国連人口基金では他のパートナー団体と協力し、被災女性と少女たちのために以下のサービスを提供しています。

1) 女性用衛生キットの配布

妊娠可能な女性の健康と尊厳を保つために、洋服や、生理用品、懐中電灯、衛生用品等が含まれているキットを被災した女性と少女たちに配布しています。



(日本政府の支援より購入された女性用衛生キットに入っている、性的暴力を受けた際の対処方法について説明しているメッセージカード)

2) リプロダクティブ・ヘルスキットの配布

出産や流産、性的暴力、性病感染の予防に必要な物資の他、縫合器具、避妊具（薬）などが含まれています。



(カブレ地域のリプロダクティブ・ヘルスキャンプでキットを受け取っている女性たち)

3) 移動式リプロダクティブ・ヘルスキャンプの設置

国連人口基金は、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルサービス(SRH)、ジェンダーに基づく暴力(GBV)を防止するためのサービスと関連情報を提供する、移動式の緊急リプロダクティブ・ヘルスキャンプを、パートナーNGOであるFRANの協力で運営しています。このキャンプには、医師、熟練の助産師、若者のための教育者、社会心理カウンセラー、コーディネーター、ボランティアなどが働いています。

この移動式リプロダクティブ・ヘルスキャンプは、カブレ、ラスワなど主な被災地14地域をそれぞれ約2-3日ずつの間隔で巡回しています。日本政府の支援のもとで運営されているキャンプが6月初めにベトラワティ地域を訪問した際には、3日間で500人以上の女性と少女がリプロダクティブ・ヘルスサービスを受けることができました。



(カブレ地域でのリプロダクティブ・ヘルスキャンプの様子)

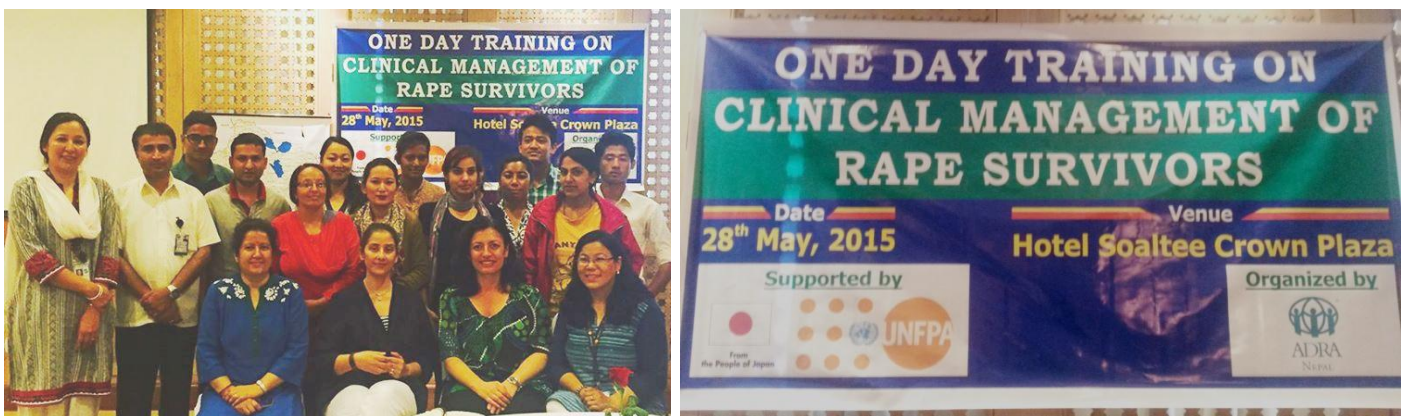




(ラスワ地域のリプロダクティブ・ヘルスキャンプを訪れた女性。キャンプには日本の国旗、国連人口基金のロゴが記された横断幕が掲げられている。)

4) 性的暴力被害者のための医療マネジメントの一日トレーニングの実施

国連人口基金ネパール事務所は地震後の5月28日、首都カトマンズで性的暴力被害者のための医療マネジメントの一日トレーニングを日本政府からの支援のもとで行いました。



(写真：1日トレーニングに参加した人たちとバナー)

この支援活動の詳細については、以下のリンクをご覧ください。

- ① “日本政府がネパール地震によって被災した女性と少女たちのための国連人口基金の救命活動を支援する” *Japan supports UNFPA's lifesaving assistance for women and girls affected by earthquake* (英語)

http://countryoffice.unfpa.org/nepal/2015/05/13/12106/japan_supports_unfpa_s_lifesaving_assistance_for_women_and_girls_affected_by_earthquake/

② “軌道に乗るリプロダクティブ・ヘルス” *Reproductive health on the move* (英語)

http://countryoffice.unfpa.org/nepal/2015/06/08/12246/as_monsoon_looms_unfpa_and_partners_scale_up_mobile_camps_prioritize_remote_areas/

③ “モンスーン現象が迫ってくるなか、国連人口基金と協力団体は遠隔地を優先しながら移動式キャンプを拡大” *As monsoon looms, UNFPA and partners scale up mobile camps, prioritize remote areas* (英語)

http://countryoffice.unfpa.org/nepal/2015/05/27/12198/reproductive_health_on_the_move/

また、朝日新聞 2015 年 5 月 10 日付記事でも、この取り組みが紹介されました。

(「ネパール被災地、女性守りたい 妊婦向け検診 生理用品を配布」

<http://www.asahi.com/articles/DA3S11745640.html>)